

特集

ボールパークの 実現に向けて



問合せ ボールパーク推進課
(☎372-3311・内線3632)

3月26日、市と市民が一体となって誘致活動を進めてきた北海道日本ハムファイターズのボールパーク（以下B P）建設候補地に、きたひろしま総合運動公園予定地が内定しました。

同日、株式会社北海道ボールパーク（以下H B P）が設立され、構想の実現に向けた新たな一歩を踏み出しました。H B Pの福田社長に、構想に至った背景やB Pに懸ける思いなどを聞きました。

B Pを作ろうと思った理由は？

一番の理由は、選手のプレー環境とファンの皆さんの観戦環境の改革です。

選手には、天然芝か天然芝と同等なグラウンドでプレーしてもらいたい。一方でパフォーマンスの向上を図りま。それとともに、故障因子が減少し、選手生命を脅かすようなけがを防止できます。蓄積する負担の軽減につながる事も明らかです。それだけではなく、ウエイトトレーニングやランニング、試合後のケアをするためのエリアの配備など、バックヤードの施設の充実がさらに必要と考えています。

株式会社北海道ボールパーク

新球場建設の着工に向けた準備を進めていくために設立された会社です。

球場デザインの選定や設計施工、資金調達法の精査などを行います。また、市やH B Pと共に共同創造空間を構築するパートナー企業も選定していきます。

座席は臨場感あふれる位置や角度などのレイアウト、快適さなどが挙げられます。また、球場内のレストランをはじめ多様な飲食スペース、グッズを販売するオフィシャルショップの充実など、野球以外にも楽しめる空間の必要性を以前から感じていました。球場外のエリアには、レクリエーション施設などの計画もあります。メジャーリーグでは当たり前の事でしたが、近年は国内でも、そういった試みに着手する球場が増えつつあります。

北海道日本ハムファイターズは、今シーズンで誕生15年目を迎えます。これまで支えていただいたファンの皆さんへの感謝の思いは強く持っています。北海道にB Pを誕生させることで、これまでの温かいサポートに少しでも報いることができたという思いも、本構想に至る動機です。

候補地を決定した決め手は？

札幌市も含め、真剣に候補地を提案していただきましたが、最終的には当初のコンセプトである「北海道のシンボルとなる空間の創造」という夢を実現するためという観点から、今回の結論に至りました。

アジアナンバーワンのB Pを作るために必要なことは？

アジアで一番の野球大国である日本国内に、今までにないスタイルのB Pを構築できれば、アジアナンバーワンと言えるのではないかと考えています。

理想とするB Pを建設できれば、海外の野球ファンや観光客が足を運び、注目をしてもらえよう。国際競争力を有するライブエンターテインメントタウンになるとも考えます。そのためにはファイターズの経営理念である「Challenge with dream」にのっとり、既成概念にとらわれず、「夢を持った挑戦」を実現する事が必要だと思っています。

本構想には、他球団の方々も強い関心を示しており「日本のプロ野球に新しい風を吹かせるようなB Pが



株式会社北海道ボールパーク
代表取締役社長 福田要さん

できるかもしれないね」などという期待の言葉もいただいています。そのためには、どのような球場を目指すのかということだけではなく、北広島市も含めて、独創的で革新的な発想を持つパートナーと、夢のある共同創造空間を生み出していく過程が重要になると考えています。

市に期待することは？

交通インフラなど懸念となつている課題を解決するための協力的体制構築、北海道や北広島市の周辺自治体との連携は大きく期待しています。



新球場建設構想イメージ

理想的なBPを実現するためには、お互いの協力体制と信頼関係の構築が欠かせないと考えております。

これから本格的なスタートになりますので、共同創造空間のパートナーとして伴走していただきたいと思っています。

今後のスケジュールは？

2020年の着工、2023年の開業をめどに進めてまいります。

まずは、本年内に構想実現の可否を最終判断するため、準備作業をしっかりとかなして行きます。

市民の皆さんへメッセージを

候補地検討の段階では、子どもからお年寄りまで市全体が一丸となつて応援してください。思いが十二分に伝わってきましたし、その熱い思いをとて心強く感じました。あらためて感謝を申し上げます。また、さらなる機運の醸成をお願いいたします。

今後は、市民の皆さんにも意見を出していただきながら、本構想を進めていくことも視野に入れております。皆さんも「こんなBPになつて

ほしい」というアイデアを膨らませながら、ワクワクした気持ちで毎日を通じていただければと考えています。

北海道の雄大な自然と共生し、子どもから大人まで全ての人々が楽しく語り・遊び・食事ができる、そして臨場感あふれる劇場の中でスポーツ観戦ができる空間づくり。構想の実現までには、クリアしなければならぬ課題があることは事実です。これらを克服し、地域に根差し、地域とともに発展する「まちづくり」の核となる成長型のBPの実現を、市民の皆さんと一緒に目指していきたいと切に願っています。

東洋経済新報社が発表した第24回全都市「住みよさランキング」(2017年)では、北広島市は総合評価で4年連続道内1位になっています。本構想で、その魅力をさらに高めることができるよう、少しでも新しいまちづくりのお役に立てればと思っています。

道民の皆さんには、強く誇りを持つていただけるような北海道のシンボルの一つと言われるBPを建設したいと考えておりますので、引き続き、心強いご支援とご協力をよろしくお願します。

市民の誇りとなるBPを

3月26日の新球場候補地決定以降、多くの市民の皆さんから、BPに対する期待の声が寄せられています。

ファイターズと市は、これまで多くの時間をかけながら、目指すべきまちの未来像を共有してきましたが、福田社長の話を聞き、私自身も期待を新たにしたいところであります。

開業までの間には、インフラの整備はもとより、BP開業に向けてまち全体を盛り上げることも重要であると思っております。多くの方がさまざまな形でBP構想に携わった、市民の誇りとなるBPの完成を目指してまいります。

北広島市は、多くの先人たちが挑戦することにより生まれ、成長してきたまちであります。現代に生きる私たちも、未来に向かい、大志をい



北広島市長 上野正三